



実家が酪農家なので本校に入学し、牛部を見学したときに「自分にはこしかない」と思って入部しました。昨年はリードマンとして共進会に出たので、やりたいことは達成できました。心残りは、全共に行くことができなかったことです。(3年生、佐藤寿己さん)



牛に興味があるものの、実家は酪農家ではないので、実践的に牛のことを学べる牛部を選びました。目標は共進会で賞をとることです！これからリードの練習にも取り組みます。(1年生、岡崎彩女さん)



小さい頃から動物の飼育員になりたくて、そのための一歩として動物の世話をできる牛部を選択しました。当初の目的である動物への慣れは達成できましたが、もう少し長く、この活動を続けたかったです。(3年生、有賀聖敏さん)



酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！



実家が酪農家でも非農家でも、牛部は牛舎が学びと喜びの場である。授業以外にも牛や命を学べる場——それが牛部の意義でもある。



実家が酪農家で将来後継ぎしたい思いもあり、学べる場所を求めています。母には運動部を勧められましたが、家の仕事の手伝いもしたいので牛部に入りました。これからは飼料の種類を覚えたり、給飼方法を学びたいと思います。(1年生、相馬一翔さん)

概要

栃木県立那須拓陽高等学校 牛部
部員11名
繋ぎ牛舎(乳牛40頭、和牛30頭)
活動内容
牛をとおして友達ができ、いきいきと活動できる場が那須拓陽高校牛部。活動を通じて牛に精通し、地域を支える農家や関係者へと成長する場。数ある部活動のなかで、「プロ」(酪農家)と触れ合えることが特徴であり、牛舎作業や共進会活動に積極的に取り組む。
担当教諭：関澤 拓実 先生



OBも牛部の活動を支援しています。2011年度卒業の実習教員・阿久津祥太さんも牛部を指導。「私が在学当時は同好会でしたが、その後、部に昇格。拓陽といえば「牛部」です！」(阿久津先生)

酪農の楽しさと牛の素晴らしさを実感する部員達は明るい将来像を描いている。「明るい未来へと誘導するのが私達の仕事」と関澤先生



県内でも那須は酪農の中心地。部活動や勉強してもらって那須と牛をもっと好きになってほしいです。牛と関わることで、生徒達がいきいきとした姿を見せてくれるとき、畜産担当の教師冥利に尽きます。(関澤先生)



子どもの頃から将来は動物関連の仕事に就くことを目標にしています。動物を育てる部活は牛部しかなかったので迷わず入部しました。ここで動物を育てる経験を得て、それを将来に活かせるよう頑張ります。(1年生、森愛歌さん)



実家が酪農家で、牛部で活動することで得るものがあると思い入部しました。作業機械が大好きで休憩時にはトラクタのカタログを友達と眺めて楽しんでいます。牛部で乳牛の調教に力を入れていきたいです。(2年生、粕谷颯来さん)

NO.2

栃木県立那須拓陽高等学校



入部したのは3年生の夏です。ほかの部活を引退後、牛部に顔を出すようになったところハマりました。昨年の和牛全共では特別区での出品を目指しましたが、叶いませんでした。共進会でリードをする目標は、大学で叶えたいと思います(3年生、白井佑典さん)

学生牛部は今!